

坂西梓里（分子系統学）、新田梢（植物学）、片平浩孝（生態学）

## 研究の背景

私たちがよく目にするオカダンゴムシは明治期に渡来した外来種ですが、在来種のコシビロダンゴムシは、都市部では生息環境が厳しく限られています。本プロジェクトではその**実態を解明するため調査を続け、これまでに神奈川・東京の計6カ所で新たな生息を記録**しました。今後は分布情報の蓄積とともに遺伝子解析を行い、各地点の個体群がどのようなつながりを持ち、遺伝的多様性がどのような状態にあるのかを評価します。小さな生き物を通して、都市の生態系を一緒に考えてみませんか？。



在来種のコシビロダンゴムシ

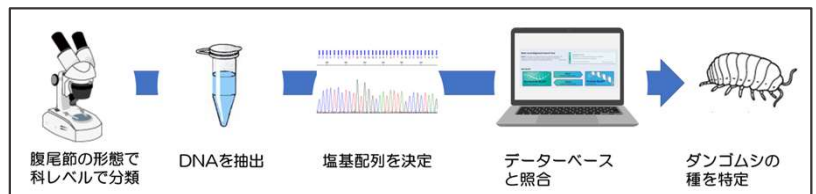
## アプローチ

**生息調査**：神奈川県内・東京都内の公園を対象に、在来・外来ダンゴムシの生息状況について、見つけ取り法（調査地区内を歩きながら、生息するダンゴムシを目視により確認、採集する方法）により調査を行います。



見つけ取り法による生息調査

**遺伝的多様性の評価**：各調査地の個体群について、遺伝子解析を行い、集団内および集団間での遺伝的変異の大きさや違いを評価します。



遺伝子解析による種同定および遺伝的多様性の調査

## 期待される結果

- ◆ コシビロダンゴムシは、神奈川県内（横浜市8カ所、相模原市1カ所）を除き、都市部での分布記録が極めて少ないのが現状です。本調査によって新たな生息地点を報告・蓄積することで、**都市における在来種の貴重な生存実態を明らかにできる**と期待されます。
- ◆ ダンゴムシは移動性が低いことから、同じ種であっても地理的に隔離された個体群間で異なる遺伝子を持っている可能性があります。地域個体群間の遺伝的多様性を明らかにすることは、**遺伝子レベルの多様性保全につながる**ことが期待されます。
- ◆ ダンゴムシは環境によって生息する種類が異なり、特に在来のコシビロダンゴムシは豊かな森林環境を好みます。そのため、彼らの生息が確認できれば、その場所が安定した自然環境であることを示す重要な証拠となり、**都市公園の「自然度」を客観的に評価する指標としての活用が期待されます**

## 募集方法

4名程度を募集します。ホームページでの募集のほか、前期期間中にプロジェクトの説明会を行います（説明会にどうしても参加できない場合は、個別で説明の機会を設けます）。また、随時質問等を受け付けます。